

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195100037		
法人名	株式会社 日本キャリアサービス		
事業所名	グループホーム だんらん紋別落石館		
所在地	北海道紋別市落石町3丁目29番11号		
自己評価作成日	令和3年1月13日	評価結果市町村受理日	令和3年5月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、入居者様中心のケアを大切にし、その日その時入居者様個人の訴えや状態に合わせ可能な限り柔軟に対応する様努めています。また、ご本人や家族様とケアカンファレンスなどを通じて入居者様の生活が平穩なものになるよう取り組んでいます。入居者様間の交流を深める為に前庭での焼肉レクリエーションやドライブ、菜園・花壇整備などを実施していましたが昨今のコロナ禍で例年通りの実施は難しく、地域の繋がりが弱りとして参加していた町内会行事等(野遊会)や他施設の行事(はなぞのまつり)も中止となりました。また、地元学生には施設実習・体験の場を提供したり、地元養護学校から招待を受け訪問するなど認知症を正しく理解して頂く機会も失った状況ですが、当ホームの理念「いつも笑顔がはじける信頼のわが家だんらん」を目指し、入居者様にとって最善・最適なケアを目指します。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0195100037-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年4月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームだんらん紋別落石館は、市内落石地区閑静な住宅街に立地しており、開設当初職員と共に作った理念「いつも笑顔がはじける信頼のわが家だんらん」を基本に職員や家族の要望を取り入れ、個々の生活を分析しカンファレンスを充実させ介護計画に反映させています。利用者は現存する生活機能の維持からも、個々の能力に応じ、日々の部屋掃除や洗濯干し、たみ、調理の下ごしらえ、茶碗洗い・拭きなど事業所に入る前の当り前の生活に近い環境が維持できるように支援しています。外出行事や地域交流などの行事が中止したり面会制限のなかで、楽しんでできる手作りおやつや季節行事、誕生会での会食では利用者の希望で出前や食事やレクリエーションを充実させるなど満足感が味わえるように心掛けています。必要以上にコロナに怯えず日常的には天気の良い日に散歩やドライブに行きアイス等を食したりし気分転換に努めています。令和3年度に紋別市福祉サービス事業所連絡会が発足され、ホーム長が委員として参加しコロナ対策を含め様々な事に関して紋別市事業所全体として共通認識を図るよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念は、グループホームの意義を全員で確認し、ホームの在り方を理念としました。職員全員が参加し、作り上げた理念として、利用者との関係性を大切にしたい理念となっています。	開設時に全職員が参加し作り上げた理念は、介護サービスの基盤として職員に浸透しており、職員個々の1年間の目標が掲示され、常に意識されるようにしています。理念はパンフレットに掲載されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染防止の為、地域行事への参加や近隣擁護学校への交流を中止している為、地域との交流が途絶えている。	コロナ禍の中、利用者の安全確保のため地域の交流はありませんが、地域のごみ拾いを利用者と共にホーム長が行っています。地域の行事が開催されない中、車での港祭りや花見、ドライブなどを事業所の利用者や職員と交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	従前地域の研修会に参加したり、人材育成の貢献としてボランティア、実習生、施設体験等の受入にも協力していたがコロナウイルス感染防止の為、途絶えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本来年間6回会議を開催し委員の皆様へに直接状況等を報告し助言を頂くところですが、コロナウイルス感染防止の観点から中止が続き郵送等で日常報告のみ実施している。	運営推進会議は文書にて運営や利用者状況、ヒヤリハット、事故等を利用者家族に報告しています。コロナ感染症に関する情報などの協力や報告を行っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月当ホームの入居について報告を行っているほか、不明な点などは気軽に電話や出向くなどして意見の調整を行っている。また、運営推進会議のメンバーとして助言を頂いている。	行政とは、不明な点は直接伺ったり、電話などで適切なアドバイスや指導をして頂いており、良好な関係構築がなされています。各行政機関主催の研修会の参加はコロナ禍により自粛しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を整備し、身体拘束廃止に向けた意識を持ち身体拘束をしないケアの徹底に取り組んでいる。	身体拘束廃止に関する指針の中で運営推進会議での身体拘束廃止委員会の設置に規定されています。運営推進会は主に書面にて報告をしています。大きな声や不適切なケアと思われる場合があった際は都度指導しています。	身体拘束の弊害について、職員個々が適切に意識しケアができるよう研修の実施を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対する虐待が見逃されることがないように注意を払い、情報を共有する事で防止に努めている。また、コロナウイルスの関係で研修に参加出来ていない状況を補うためチェックノートを配布した。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナウイルス感染防止の観点から権利擁護に関する研修会等への参加を見合わせている為、職員の理解を深める機会が減少している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、契約書を用いて施設長が中心となり、ご本人、ご家族に利用料や起こりうるリスク、重度化や看取りに対する方針、医療連携の体制等について詳しく説明し同意を得るようにしている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の関わりの中やケアカンファレンス会議で直接お話を聞いている。これからもご家族が積極的に意見を発信できる機会を設け、運営に反映させて行きたい。	アクリル板パーティション設置での面会を家族のみで実施していますが、ホーム便りで利用者の様子を多くの写真にて報告したり、利用者個々の写真を送付し利用者家族の安心に繋がっています。利用者や家族の意見や要望は、毎日利用者と交わす会話や家族の面会、電話連絡にて把握するように努めています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からのコミュニケーションを図り、フロア会議等で現状報告や意見を聞き情報の共有化、報・連・相に努めている。	ホーム長や管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努め、ミーティングや会議時に意見や要望を聞くように努め運営に反映しています。年度末にセンター長と面接を行い職員個々の目標達成の評価や要望を聞き、クオリティやモチベーションの向上に繋がっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人手不足から、ゆとりのある労働環境を提供できない状態が続いている。介護業界の人で不足は深刻であり、1事業所が解決出来るレベルの問題ではない。外国人労働者の受け入れも近い将来視野にいれなければならないと思う。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成に関する内部調査した結果、スキルアップや新人に対する教育が劣っていると厳しい回答が多かったことを踏まえ、限られた時間・環境を考慮し改善に臨む。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	紋別市地域包括支援センターが中心となり交流機会・情報交換の場の提供し、お互いに刺激のある交流環境が整っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の相談体制として、ご本人に来所して頂き、見学、説明などをし理解して頂くことに努めている。また、体験入所も進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の取り組み苦勞等を聞き、これまでのサービス状況等を含め、ゆっくりと話し合いを持つようにしている。話を聞くことにより、次の段階の相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族のこれまでの取り組みを確認するとともに、地域の福祉サービスの紹介や説明を行い、その方に適したサービスの助言をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いや、悲しみ、不安、喜びなどを知ること努め、暮らしのなかで分かち合い、共に支えられる関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や思いをきめ細かく伝えることで、ご家族と職員の思いを重ね、ご本人を支えていける様に留意している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスで馴染みの人や場との関係は希薄になった傾向は否めない。従来の環境状態に早く戻り馴染みの人と場所の関係を取り戻したい。	コロナ禍の影響により、面会制限があり家族以外の面会ができていない状況ではありますが、お盆や美容室の外出は利用者本人の希望で家族の協力のもと行っています。中には携帯電話で毎日家族に連絡している利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を通じ、ご本人の役割見たいものが構築されており「掃除・洗濯物の片づけ、また利用者が別の利用者の面倒を見るなど自主的に行われおり、職員が調整役となり支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた際も、機会があるときに様子を伺うよう努めているが、現状はコロナウイルス感染防止の為滞っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活にて、ご本人の意向、思いを確認しケアプランに反映しています。入居者の希望を確認する良い機会となっています。	本人の意向が確認できる方は、都度意向の確認を行い、ケアプランに反映させ、サービスの提供に努めています。本人の意向確認が難しい場合は個々のセンター方式の活用や家族に確認しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用することで、一人ひとりの生活歴等の把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、小さな行動からご本人の心身の状態をくみ取れるように努力している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族には日頃から関わり意見を聞き取り、介護計画に反映させている。毎月担当者とモニタリングによりサービス実施状況を把握して、次回のケアプラン作成に活かしている。	基本6ヶ月に1回見直しを行い、毎月の会議で利用者カンファレンスや詳細な介護記録により情報を積み重ね、アセスメント・モニタリングに反映させています。本人・家族は元より医師や看護師の意見等も得て介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、日々の暮らしの様子や心身状況、本人の言葉等を記録している。また、いつでも職員が確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援に柔軟に対応し、個々に満足が得られるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公的施設の利用や催し物の参加などの支援をしているが、現状はコロナウイルス感染防止の観点から滞っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人と家族が納得したかかりつけ医となっており、定期受診や情報提供にて主治医との連携もとれている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診は事業所が対応し、家族の希望で通院されている方もいます。必要に応じての歯科の往診や月2回、24時間オンコールの訪問看護師により健康管理が行われており利用者、家族の安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約に基づき、日頃の健康管理や、医療面での相談、助言、対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナウイルス感染防止の観点から、ご本人に面会が出来ないが病院担当者と出来るだけ情報交換をする様努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、将来起こりうる事態に予測をつけ、事業所が最大限出来るケアについて説明を行っているが、現状では看取りが出来る環境ではない。	医療連携、重度化に関する指針、看取りの関する確認事項で事業所における現在の医療連携体制の理解をして頂きが出来ないことを説明しています。利用者や家族の思い、意向を聞き話し合いながら支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な初期対応訓練は未実施であるが、フロア会議等で日常の変化など確認し合い対応に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回、昼間・夜間の火災を想定し実施しているが、地域との訓練は十分とは言えないが連絡網は整えている。	消防署の立会いのもと、昼夜を想定した火災訓練を実施しています。近隣住民の連絡網への登録をお願いし見守りなどの避難訓練協力体制を構築しています。停電時における備蓄などを準備しています。	あらゆる災害時の安全対策を災害毎に対応したシミュレーションを行い更なる利用者の命の安全・安心に繋がることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する問題や個人情報に関する問題については慎重に取扱い、管理している。公開して良いとされている個人情報に関しては、ご本人、家族、事業所間で同意書が交わされている。	利用者一人ひとりの自尊心を傷つけない声掛けや呼び方を心掛けています。利用者の書類関係、個人情報などは適切に管理されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との馴染みの関係を通じて、お互いにものを言い易い関係を構築している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間で区切るような過ごし方は行っていない。入居者のペースに合わせて柔軟に対応する様に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に出かけたり、理容室に協力して頂き、出張でカット等して頂いている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器を鮮やかにしたり盛り付け等で、楽しみの提供を心掛けている。食が絡むレクリエーションを増やし、一緒に作り一緒に食べ楽しい時間の提供に努めている。	職員が献立を作成し職員と一緒に下ごしらえや調理などを行っています。誕生日や行事食では出前、手作りケーキ、好みの具で作るおにぎりパーティー、たこ焼き・餃子パーティーなど興味や関心を持ってもらい楽しい食事になるよう取り組んでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量については記録に残し、食事摂取量については、本人の状態に合わせて記録している。また、各入居者にあった食事の提供やそれぞれのリズムで食事が摂れるように努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、なるべく自分で行ってもらっている。自分で出来ない方は、職員が口中の清潔や入れ歯の洗浄等をしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が継続出来るよう利用者に向けた支援をしています。また、失禁等で不快にならないよう利用者一人一人の排泄パターンを把握しその方に合った声掛けをしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った声掛け誘導を心掛けトイレでの自立排泄に取り組んでいます。利用者の安全を考慮し夜間はポータブルトイレを利用されている方もいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響について理解すると共に、医療職と協力している。服薬や食事からのアプローチにより便秘予防または、改善に取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯をホーム側で仮設定しているが、安心してゆっくり入浴して頂けるよう本人にその都度確認し入浴して頂いている。	利用者の希望に添い状況、状態を見て週2回の入浴を支援し、見守りながら一人で入浴される方もおり、心と体がほぐれリラックス出来るよう入浴剤を工夫して楽しく取り組めるよう行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のその日の状態や変化に応じて休息出来る様に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に処方箋を確認する他、院外薬局の職員が薬を配達してくれる時に説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活を通じてご本人が楽しみながら行える活動をしている。(モップがけや洗濯物かたづけ等)また、不定期ですがドライブやレクリエーションなど外出する機会を多く持てる様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族に協力して頂いて本人の希望の場所へ外出したり、職員と一緒に外出している。また、外出機会を増やすよう努めている。	天気の良い日には中庭の桜を愛でたり、海に見える広場へ行きアイスを食べたり、利用者の家の前のフキを取りに出掛けたり、花の苗植えなど気分転換になるよう努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいとして、必要な時使えるようにしている。基本各フロアーの管理者・主任が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により対応出来る様にしている。電話の使用は自由で、手紙をポストに入れたり、切手の購入などの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には利用者が作成した季節感のある作品や壁新聞を貼り、それらを見て利用者間で楽しい会話が弾み、食事中は窓から見える花で楽しく食事が出来た。	共有スペースは季節が感じられる飾りつけがされており、年中行事の飾りや一人ひとりがクリスマスのリースを作ったり和気あいあいと楽しい雰囲気となっています。感染対策の為換気や消毒を徹底しビニールでゾーニングを設置し感染症防止に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを複数設置し思い思いに過ごせる様にしている。、その他中庭・玄関先にベンチを置くなど工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトについては、安全性を重視し、ご本人とご家族そして職員で話し合っ決めていく。家族や思い出の写真を飾る利用者が多く居心地よく過ごしている。	居室には使い慣れた家具や調度品などが置かれ利用者の安全を第一を考えた配置となっています。家族と携帯で連絡を取り合ったり、毛糸で靴下を編む方、週刊誌を読んだり今までの生活習慣が継続できるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	利用者に解りやすい様に、案内板などをつけ、なるべく自分で出来る部分を増やせるように工夫している。		